

5. 林産物の需給

(1) 木材の需給

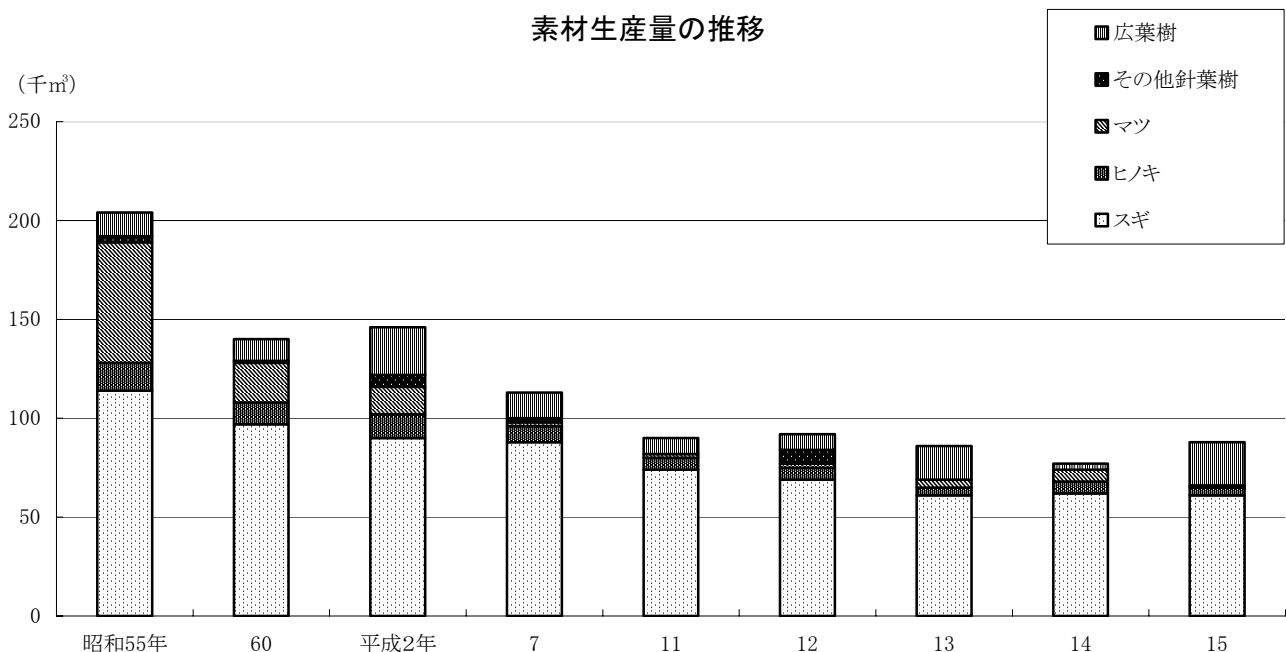
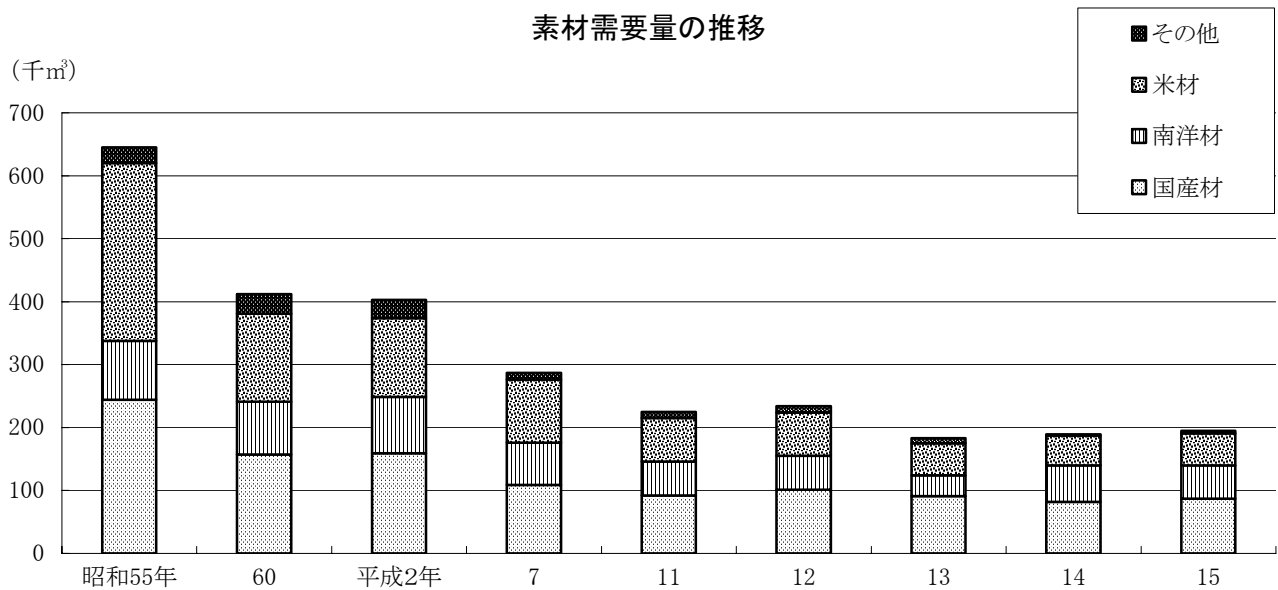
平成15年の素材需給量は前年より6千 m^3 増加し195千 m^3 であった。このうち国産材は87千 m^3 、外材は108千 m^3 であった。

外材のうち、47%は米材であり、49%は南洋材である。

県内素材生産量は、前年より11千 m^3 増加し88千 m^3 で、樹種別でスギ61千 m^3 、ヒノキ4千 m^3 、マツ1千 m^3 、その他針葉樹はなし、広葉樹が22千 m^3 となっている。

県内の素材生産を所有形態別にみると、国有林は前年より1千 m^3 減少し3千 m^3 、公有林は前年より1千 m^3 減少し2千 m^3 、私有林は前年より13千 m^3 増加し、83千 m^3 であった。

県内の製材工場への素材の入荷量は119千 m^3 、製材品生産量は77千 m^3 となっている。



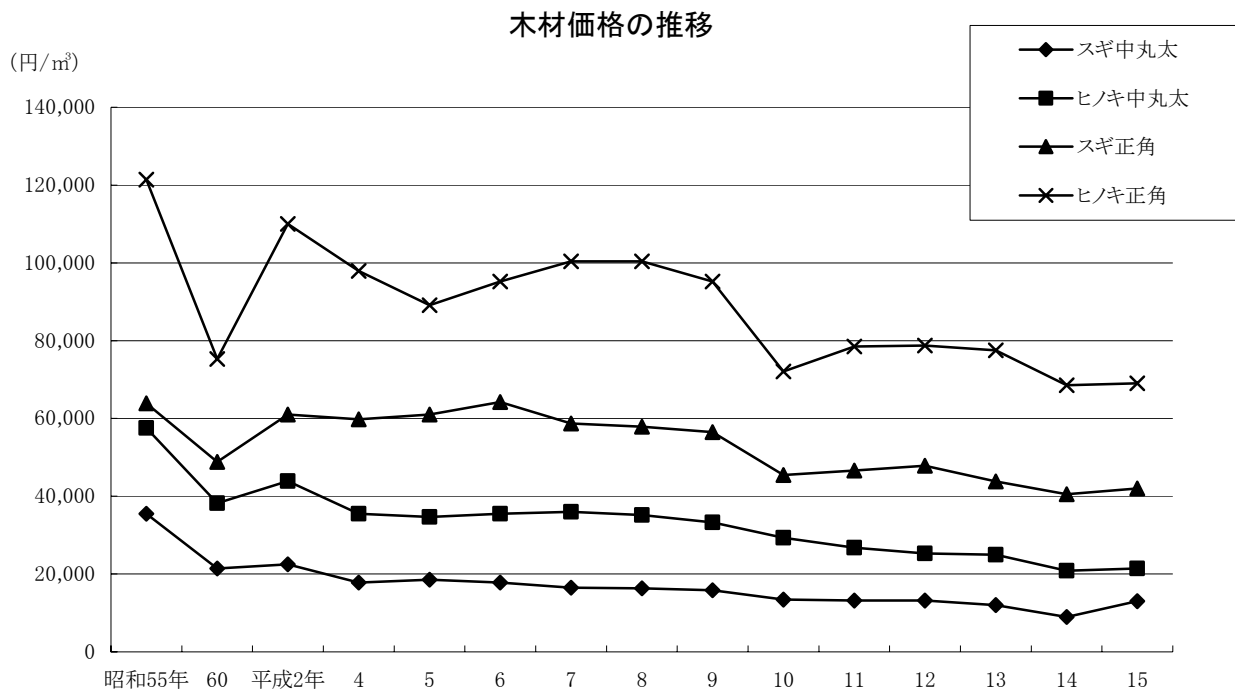
(2) 木材価格

昭和55年をピークに低迷を続けていた木材価格は、昭和62年から平成2年にかけて好調な住宅建設に支えられて緩やかに上昇したものの、平成2年の後半から円高による外材の大量入荷が引き続き低下傾向となった。

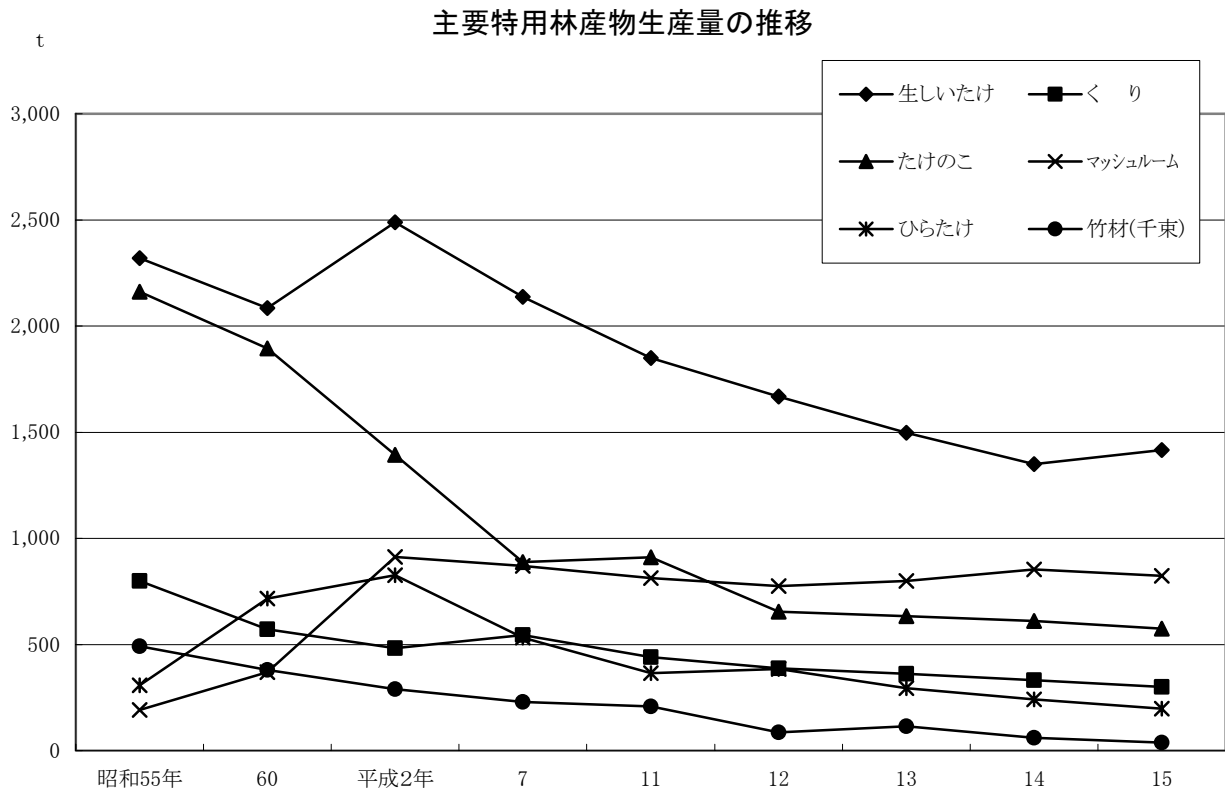
平成3年以降も景気の後退により低下傾向が続き、平成7～8年にやや持ち直したものの、平成10年には再び下落、以降低迷していたが、平成15年には価格が若干上昇した。

平成15年の素材の平均価格は、スギ中丸太が13,042円/m³で対前年比4,042円の上昇、ヒノキ中丸太が、21,417円/m³で584円上昇している。

製材品は、スギ正角（10.5cm角、長さ3.0m）が42,000円/m³で前年比1,500円の上昇、ヒノキ正角（10.5cm角、長さ4.0m）が69,000円/m³で500円上昇している。



(3) 特用林産物の需給



(注) 竹材生産量の単位は千束

本県の特用林産は、シイタケ・マッシュルーム・ヒラタケ等のきのこ類を中心に、タケノコ・ワラビ・ゼンマイ等の山菜類、クリ等の樹実類、竹材等の竹類、シキミ・サカキ等の特用樹等と多種にわたっている。

生産量を作物別に見ると、生シイタケは原木栽培から自家菌床栽培への切り替えにより対前年比5%増の1,417 tの生産となった。地域別では千葉が401 tと最も多く、次いで夷隅・君津・印旛の順となっており、これらの地域は補助事業等を導入して産地化が図られている。

マッシュルームは海匝・香取地域において、対前年比4%減の824 t生産されている。ヒラタケはほぼ全県で生産されており、対前年比18%減の198 tとなっている。

タケノコは生産者の減少、不作及び獣害により前年比6%減の575 tの生産となった。地域別に見ると夷隅地域が最も多く365 t、次いで長生・千葉の順となっている。特に、夷隅地方は早出しタケノコの産地として知られている。

樹実類ではクリが、対前年比10%減の300 tとなった。

竹類では対前年比39%減の37千束となっている。